

抗血小板剤

処方箋医薬品

日本薬局方 クロピドグレル硫酸塩錠

クロピドグレル錠25mg「サワイ」

クロピドグレル錠50mg「サワイ」

クロピドグレル錠75mg「サワイ」

2020年6月

沢井製薬株式会社

大阪市淀川区宮原5丁目2-30

TEL: 0120(381)999

使用上の注意改訂のお知らせ

この度、厚生労働省医薬・生活衛生局医薬安全対策課長通知(令和2年6月1日付)に基づき、下記のとおり使用上の注意を改訂致しますので、お知らせ申し上げます。

今後のご使用に際しましては、下記の内容をご参照下さいますようお願い申し上げます。

記

・改訂内容（ ― 部、取り消し線部：通知に基づく改訂箇所）

改訂後	改訂前
【禁忌】(次の患者には投与しないこと) 〈該当項目削除〉	【禁忌】(次の患者には投与しないこと) 3)セレキシパドを投与中の患者(「相互作用」の項参照)

(裏面につづく)



改訂後	改訂前																				
【使用上の注意】 3.相互作用 本剤は、主にCYP2C19により活性代謝物に代謝され、CYP1A2、CYP2B6、CYP3A4等も活性代謝物の生成に寄与する。また、本剤のグルクロン酸抱合体はCYP2C8を阻害する。 「併用禁忌」の項削除 併用注意(併用に注意すること) <table><tr><td>薬 剤 名 等</td><td>臨床症状・措置方法</td><td>機序・危険因子</td></tr><tr><td>薬物代謝酵素(CYP2C8)の基質となる薬剤 レパグリニド</td><td>レパグリニドの血中濃度が増加し、血糖降下作用が増強するおそれがある。</td><td rowspan="2">本剤のグルクロン酸抱合体によるCYP2C8阻害作用により、<u>これら薬剤</u>の血中濃度が増加すると考えられる。</td></tr><tr><td>セレキシパグ</td><td>セレキシパグの活性代謝物(MRE-269)のCmax及びAUCが増加したとの報告がある。本剤と併用する場合には、<u>セレキシパグの減量を考慮すること。</u></td></tr></table>	薬 剤 名 等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	薬物代謝酵素(CYP2C8)の基質となる薬剤 レパグリニド	レパグリニドの血中濃度が増加し、血糖降下作用が増強するおそれがある。	本剤のグルクロン酸抱合体によるCYP2C8阻害作用により、 <u>これら薬剤</u> の血中濃度が増加すると考えられる。	セレキシパグ	セレキシパグの活性代謝物(MRE-269)のCmax及びAUCが増加したとの報告がある。本剤と併用する場合には、 <u>セレキシパグの減量を考慮すること。</u>	【使用上の注意】 3.相互作用 本剤は、主にCYP2C19により活性代謝物に代謝され、CYP1A2、CYP2B6、CYP3A4等も活性代謝物の生成に寄与する。また、本剤のグルクロン酸抱合体はCYP2C8を阻害する。 1)併用禁忌(併用しないこと) <table><tr><td>薬 剤 名 等</td><td>臨床症状・措置方法</td><td>機序・危険因子</td></tr><tr><td>セレキシパグ (ウプトラビ)</td><td>セレキシパグの活性代謝物の血中濃度が上昇するおそれがある。</td><td>CYP2C8を阻害することにより、<u>セレキシパグの活性代謝物の代謝が抑制されると考えられる。</u></td></tr></table> 2)併用注意(併用に注意すること) <table><tr><td>薬 剤 名 等</td><td>臨床症状・措置方法</td><td>機序・危険因子</td></tr><tr><td>薬物代謝酵素(CYP2C8)の基質となる薬剤 レパグリニド</td><td>レパグリニドの血中濃度が増加し、血糖降下作用が増強するおそれがある。</td><td>本剤のグルクロン酸抱合体によるCYP2C8阻害作用により、レパグリニドの血中濃度が増加すると考えられる。</td></tr></table> 〈該当項目なし〉	薬 剤 名 等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	セレキシパグ (ウプトラビ)	セレキシパグの活性代謝物の血中濃度が上昇するおそれがある。	CYP2C8を阻害することにより、 <u>セレキシパグの活性代謝物の代謝が抑制されると考えられる。</u>	薬 剤 名 等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	薬物代謝酵素(CYP2C8)の基質となる薬剤 レパグリニド	レパグリニドの血中濃度が増加し、血糖降下作用が増強するおそれがある。	本剤のグルクロン酸抱合体によるCYP2C8阻害作用により、レパグリニドの血中濃度が増加すると考えられる。
薬 剤 名 等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子																			
薬物代謝酵素(CYP2C8)の基質となる薬剤 レパグリニド	レパグリニドの血中濃度が増加し、血糖降下作用が増強するおそれがある。	本剤のグルクロン酸抱合体によるCYP2C8阻害作用により、 <u>これら薬剤</u> の血中濃度が増加すると考えられる。																			
セレキシパグ	セレキシパグの活性代謝物(MRE-269)のCmax及びAUCが増加したとの報告がある。本剤と併用する場合には、 <u>セレキシパグの減量を考慮すること。</u>																				
薬 剤 名 等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子																			
セレキシパグ (ウプトラビ)	セレキシパグの活性代謝物の血中濃度が上昇するおそれがある。	CYP2C8を阻害することにより、 <u>セレキシパグの活性代謝物の代謝が抑制されると考えられる。</u>																			
薬 剤 名 等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子																			
薬物代謝酵素(CYP2C8)の基質となる薬剤 レパグリニド	レパグリニドの血中濃度が増加し、血糖降下作用が増強するおそれがある。	本剤のグルクロン酸抱合体によるCYP2C8阻害作用により、レパグリニドの血中濃度が増加すると考えられる。																			